

平成25年度 四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会
第1回環境部会での質問に対する回答について

第1回環境部会における傍聴者の方々からのご質問についてお答えします。

○質問－1

河口干潟(中州)のルイスハンミョウの幼虫にとって、含泥率が下がると生息が難しくなります。工事は砂質化に対してどのぐらい影響があるのでしょうか。

◆回答－1

ルイスハンミョウの幼虫が生息する場に対しては、現状の粒度組成を維持することが重要であると認識しております。

なお、ルイスハンミョウの幼虫が生息する河口干潟の粒度組成の変化については、仮想橋脚を設置した場合の流況・地形変動解析を実施したところ、河口干潟に及ぶような地形変動が生じないと予測されていることから、砂質化などの粒状変化も生じないと想定しております。

○質問－2

干潟面積について、H16年の出水で、中州のゾウの鼻が消失したことなど、見かけ上面積変化があると思うのですがいかがでしょうか。

◆回答－2

河口干潟東部の地形は、平成16年度の出水に伴って消失いたしました。近年では、この出水によって形成された河口テラスから、波浪による砂が供給され、河口干潟東部の面積が微増傾向にあると考えております。

○質問－3

河川協議上、浚渫土砂は河川の外に持ち出さないことは、河川法にあるのではないですか？

◆回答－3

河川区域内の浚渫土砂の取扱いについては、河川管理者と協議しながら決めていきたいと考えております。

第1回環境部会では傍聴者の方々から意見・要望を頂きました。

○意見・要望－1

野鳥のねぐらは秋に人工海浜、春は河口砂州(干潟の東)。上記の様に季節により影響のないように工事を進めて欲しい。

◆回答－1

本部会においても、ねぐらへ影響がないよう配慮することが重要であると意見をいただいております。また、ねぐらに配慮した工事の実施方法等については、今後の橋梁部会・環境部会において、委員からのご指導・ご助言を頂きながら検討していきたいと考えております。

○意見・要望－２

河口部だけに現れる希少な鳥類があるので対策をする必要がある。総数での変動でよしとするのは浅薄である。

◆回答－２

河口域に出現する鳥類の種は、既往調査（先行事例の阿波しらさぎ大橋建設事業や平成 25 年 5 月に実施した鳥類調査）にて把握しております。 今回の環境部会では、この既往調査結果を提示のうえ、橋梁整備による鳥類への影響やその対策について議論したところです。 また、橋梁整備による鳥類への影響評価に必要な調査や分析等の実施については、今後の環境部会において、委員からのご指導・ご助言を頂きながら判断していきたいと考えております。

○意見・要望－３

景観への影響を評価の対象にしてないのはうけ入れられない。

◆回答－３

環境影響評価書(平成 6 年 10 月)では、事業実施判断をする一つの環境要素として、橋梁整備による河口景観が設定のうえ評価されており、その結果は環境保全目標を満足するとされております。 また、今回の橋梁形式検討で配慮する環境要素として景観を設定しないこととしましたが、これは、環境影響評価書(平成 6 年 10 月)と同じ事業実施判断のための景観影響評価は対象外としたものです。 今後の橋梁設計においては、景観を踏まえ橋梁のディテールを検討しながら進めていく予定です。

○意見・要望－４

ルイスハンミョウの回廊は草が密集している緑地が適しているとは限らない。造成する際には十分な配慮をお願いします。

◆回答－４

ルイスハンミョウの回廊確保に関する必要な検討や対策については、今後の環境部会において、委員からのご指導・ご助言を頂きながら進めていきたいと考えております。

○意見・要望－５

データベースとして、鳥の人工海浜の飛来数は、砂浜、離岸堤など、どこをどのように利用しているのが問題だと思います。詳細分析してください。

◆回答－５

橋梁整備による鳥類への影響評価に必要な調査や分析等の実施については、今後の環境部会において、委員からのご指導・ご助言を頂きながら判断していきたいと考えております。

○意見・要望－６

稚魚、ハゼ、ウナギ、カレイ etc、調査も必要と思います。

◆回答－ 6

本部会においても委員より渡河部周辺の魚類と遊泳性の生物へ影響がないよう配慮することが重要であると意見をいただいております。橋梁整備の影響評価に必要な調査等の実施については、今後の環境部会において、委員からのご指導・ご助言を頂きながら判断していきたいと考えております。

○意見・要望－ 7

鳥 垂直、水平利用の調査分析が必要。同じ高さですっと飛ぶわけではない。

◆回答－ 7

平成 25 年 5 月に実施した鳥類調査では、吉野川渡河部と阿波しらさぎ大橋の上空を飛翔した鳥類の飛翔経路とその飛翔高度を測定しております。また、橋梁整備の影響評価に必要な調査等の実施については、今後の環境部会において、委員からのご指導・ご助言を頂きながら判断していきたいと考えております。

○意見・要望－ 8

ハヤブサ等から逃げる時、これまでは河口海方向が開けていたことがよかったが、橋でふさがれ心配。

◆回答－ 8

橋梁形式については、飛翔経路の阻害を最小限とする上部構造を優位とする方針が出されました。次回、この方針を踏まえ橋梁形式案を提示いたしますので、今後の橋梁部会・環境部会において、委員からの評価がいただけるものと考えております。

○意見・要望－ 9

優占種が 8 種類しかいないという NEXCO の認識について、入れかわりが激しいということは、「生物多様が高い」かつ脆弱な環境であることをきちんと認識していただきたい。(切に)

◆回答－ 9

第 1 回検討会において、吉野川河口周辺は多種多様な環境で構成され、数多くの生物が生息生育していると認識しております。

特に、底生生物については、橋脚設置による影響を直接受けるため、橋梁形式検討において影響の最小化が図れるよう努めていきたいと考えております。

○意見・要望－ 10

阿波しらさぎ大橋と四国横断自動車道の複合的な環境評価が重要であり、課題であると思います。

◆回答－ 10

橋梁整備の環境影響評価については、今後の環境部会において、委員からのご指導・ご助言を頂きながら進めていくものと考えております。

